

令和元年度 東京都小学校体育研究会 体の動きを高める運動領域部会 実証授業



東京都小学校体育研究会 研究主題

三つの資質・能力の関係性を明確にし、

運動や健康についての課題に主体的・協働的に取り組む児童の育成

“かつどん”

かがえて
たえて



かつどん どんやろう!

どんな工夫をするの？

用具 ・ボール ・短縄 ・長縄 ・フープなど	姿勢 ・しゃがんで ・片足で ・目の横いど など	人数 ・2人 ・3人 ・グループ など
方向 ・動向き ・横向き ・後ろ向き など		リズム ・速い ・ゆっくり ・4拍子 ・3拍子 など

〇〇だったから



△△したい

次は(も)



【本日の講師】

狛江市教育委員会
統括指導主事

坂本 尚毅 先生

日時：令和元年11月5日（火）
13時40分～16時45分

場所：府中市立府中第十小学校
（最寄駅：多磨霊園駅）

授業：第6学年1組
体づくり運動「体ほぐしの運動」
「体の動きを高める運動」

授業者：古川 皓介 主任教諭

目 次

1	研究ダイジェスト	P. 2~3
2	研究の詳細	
	(1) 研究の視点1「三つの資質・能力の体育科における具体的な学習状況(児童の学びの姿)」	… P. 4
	(2) 研究の視点2「三つの資質・能力の関係性と学習過程の在り方」	… P. 4
	(3) 研究の視点3「三つの資質・能力を育むための指導と評価」	… P. 5
	(4) 学習を促す手だて	… P. 6~7
	(5) 検証授業レポート	… P. 8~9
3	学習指導案	
	(1) 単元名	… P. 10
	(2) 単元の目標	… P. 10
	(3) 単元の評価規準	… P. 10
	(4) 運動の特性	… P. 10
	(5) 児童の実態	… P. 11
	(6) 単元の指導と評価の計画	… P. 12~13
	(7) 本時案(全10時間中の1時間目)	… P. 14
	(8) 本時案(全10時間中の3時間目)	… P. 15
	(9) 本時案(全10時間中の6時間目)	… P. 16
	(10) 本時案(全10時間中の9時間目) ★実証授業で公開	… P. 17
4	指導資料	P. 18~38
5	学習カード	P. 39~46

Ⅰ 研究ダイジェスト

どうやって評価するの? P.5

①知識・技能

知識及び運動に関する知識

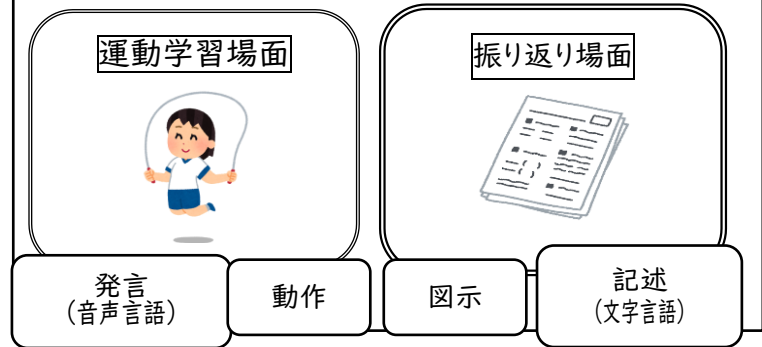
- 体力を高める必要性
- 体力要素
- 運動の行い方

技能

動きの質的な高まりや深まりの状況を設定・評価

②思考・判断・表現

【授業中の児童の取組】



③主体的に学習に取り組む態度

運動に積極的に取り組み,	観点別評価
約束を守り助け合って運動したり, 仲間の考えや取組を認めたり, 場や安全に気を配ったりすること。	個人内評価

学習をつながす4つの手だて P.6~7

①体の動きの高まりの定義

体の動きの**高まり**の明確化

できた	楽になった
できない→できる できる→滑らかにできる 工夫してできる	前より楽に動ける 前より痛く感じない

何が高まったのか

多様な動きをつくる運動との違い

②「かつどん」理論

“かつどん”

かつどん

んがえて
たえて

どんやろう!

③主体的に学習に取り組む態度の評価規準(ルーブリック) ④発問と価値付け ※検証授業レポートより

〇〇だったから

△△したい

次は(も)

前時の振り返りを紹介

その工夫で「何が高まりそう?」

リスミカルな動き!

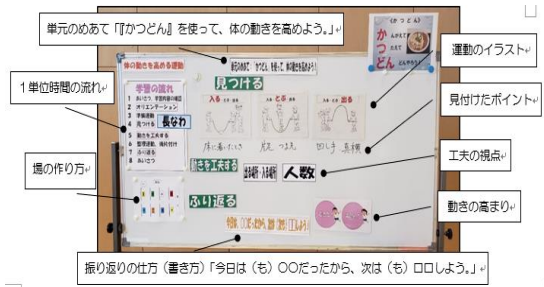
【導入場面の価値付け】 【体力要素への意識付け】

すぐに使える学習指導案 ☞ P.12~17

【学習過程・単元の指導と評価の計画】

知識・技能	①	①	
思考・判断・表現			①
主体的に学習に取り組む態度	①		②
評価する (価値付け) 内容	ポイントを見付ける 動きの工夫	体の動きを高めるための目的意識	体の動きの高まりの実感 (できた・楽になった)
主発問	「どうやったらできた?」 「何を工夫しているの?」	「何を高めるためにその運動はやっているのかな?」	この運動では、何が高まりそうかな? 「どうして、〇〇が高まったと思う?」
かつどんの観点	「か・つ・どん・できた!」の「か(考える)」		

【板書例】



動きを高める運動例2019 ☞ P.18~38

方強い動きを高めるための運動 **リズム (姿勢) 人数 (用具) 方向**

①運動の行い方: 互いがロールマットに体を付けた状態から、ロールマットを前に押し出す。
②運動のポイント: 膝を締める、低い重心で行う、肩を入れて下から押し上げるように行う。

学習手順

知る
「山さんか相手に押し出せるのはなぜか?」
「相手に押し出されたいポイントはどこか?」

する
「膝を締めて押し出してみよう。」
「次は、相手より膝を低くして押し出してみよう。」

支える
「△△さんのアドバイスでやってみよう。」
「繰り返してやってみよう。」

工夫の視点を生かした運動例

用具
○押し位置を低くする。

姿勢
○相手より高い位置で押し合える。

人数
○より力のある仲間と押し合える。

そのまま使える学習カード ☞ P.39~43

もとの動き 長なわの中に入って、1回とんで、外に出る。

入る、跳ぶ、出る

体の動きを高めるために、どんなことに気を付けて運動するとよいですか?

振り返り 【〇〇だったから、次は(次も)〇〇したい。を使って書こう!】

先生からのコメント

- 「〇〇だったから」「〇〇したい。」を使って書くといいよ。
- コメントの中に、動きのポイントやコツについて書くといいよ。
- コメントの中に、高めたい動きや高まった動きを書くといいよ。
- いいふりかえりだね!! その繩子で学習に取り組もう。

2 研究の詳細

(1) 研究の視点1「三つの資質・能力の体育科における具体的な学習状況(児童の学びの姿)」

<三つの資質・能力の具体的な学習状況>

	知識及び運動	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
児童の学びの姿	<ul style="list-style-type: none"> ○1 体力の必要性や体の動きを高めるための運動の行い方を理解することができる。 ○2 自己の課題を踏まえ, 直接的に体力の向上をねらいとして, 体の柔らかさ, 巧みな動き, 力強い動き, 動きを持続する能力を高めるための運動を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □1 自己の体の状態や体力に応じて自己やグループで体の動きを高めるための運動の課題を選んでいる。 □2 体の動きを高めるために適した運動の行い方を選んだり, 工夫したりしている。 □3 体の動きを高めるために自己やグループで考えた運動の行い方を他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇1 運動に積極的に取り組んでいる。 ◇2 約束を守り助け合って運動をしたり, 場や用具の安全に気を配ったりしている。 ◇3 仲間の考えや取組を認めている。

(2) 研究の視点2「三つの資質・能力の関係性と学習過程の在り方」

	知識及び運動	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
児童の学びの姿	<ul style="list-style-type: none"> ○1 体力の必要性や体の動きを高めるための運動の行い方を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □1 運動のポイントを見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇1 運動に積極的に取り組んでいる。 ◇2 約束を守り助け合って運動をしたり, 場や用具の安全に気を配ったりしている。
	<ul style="list-style-type: none"> ○2 自己の課題を踏まえ, 直接的に体力の向上をねらいとして, 体の柔らかさ, 巧みな動き, 力強い動き, 動きを持続する能力を高めるための運動を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □2 体の動きを高めるために適した運動の行い方を選んだり, 工夫したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇1 運動に積極的に取り組んでいる。
		<ul style="list-style-type: none"> □3 体の動きを高めるために自己やグループで考えた運動の行い方を他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇3 仲間の考えや取組を認めている。
評価の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ○新体力テストの結果等に見られる回数や記録等の数値の向上を目指すのではなく, 体の基本的な動きを高めることを目指す。また, 特定の運動ができることではなく, 4つの動きや能力の高まりを評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動のポイントを見付けたり運動を工夫したりすることや, それらを汎用的に使える力が身に付いているのかを評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に学習に取り組む態度は, 自己調整を図る姿についてルーブリックを作成して評価し, 児童の学習改善を促す。

2 研究の詳細

(3) 研究の視点3「三つの資質・能力を育むための指導と評価」

①「知識」の評価に関する考え方

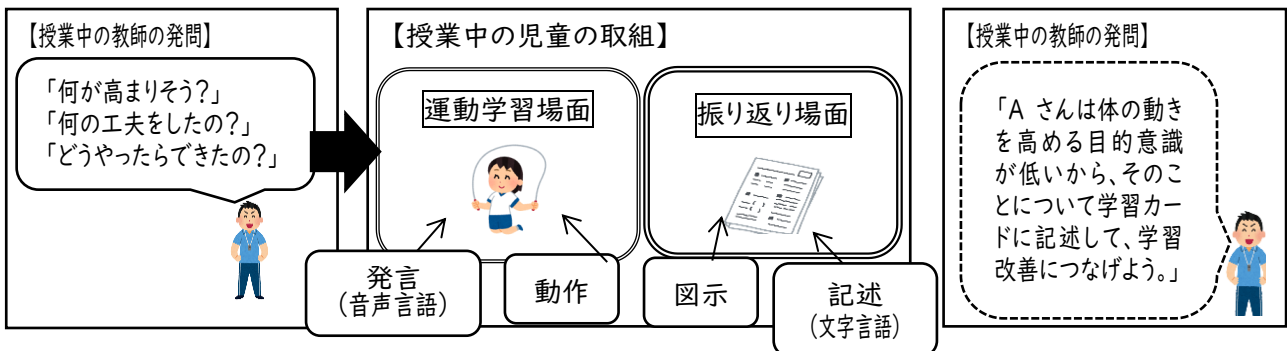
三つの資質・能力を育むために教師が指導する知識の領域は多岐にわたるが、それらをすべて評価し、指導改善や学習改善につなげることは一般的ではない。例えば、ボール運動で「勝敗を受け入れること」(学びに向かう力, 人間性等)を身に付けるには、「勝っても負けても最後に挨拶や礼をするものだ」という知識が基盤となるが、その知識を評価し、指導改善や学習改善に生かすことは一般的ではない。評価するのは、その行為(態度)である。下表は、本単元で指導を大切にしたい知識の一覧であるが、学力保証の観点から評価するのは「知識及び運動」に関する知識(太枠)である。

知識及び運動に関する知識	思考力・判断力・表現力等に関する知識	学びに向かう力, 人間性等に関する知識
○体力を高める必要性 ○体力要素 ○運動の行い方	○運動のポイントの見つけ方 ○運動の工夫の行い方 ○体の動きの高め方 等	○積極的な運動への取り組み方 ○約束を守り助け合う取り組み方 ○安全への気の配り方 等

②「技能」の評価に関する考え方

学習指導要領解説体育編(文部科学省, 2017, p.26)によれば、本単元の留意点として「新体カテストの結果等に見られる回数や記録ではなく、体の基本的な動きを高めること」としている。また、学習評価の在り方ハンドブック(国立教育政策研究所, 2019)によれば、「十分満足できる状況(A)と判断されるのは、質的な高まりや深まりもっていると判断される場合であり、その姿は多様に想定される」としている。これらを踏まえ、本単元では、「長なわで1分間に100回跳べたら技能(A)」「腕立て伏せ30回できたら技能(A)」などとするのではなく、各学校や学年における学習者のレディネスに合わせ、動きの質的な高まりや深まりの状況を設定・評価し、指導改善や学習改善に生かしていくことが大切である。

③「思考・判断・表現」の評価に関する考え方



④「主体的に学習に取り組む態度」の評価に関する考え方

下表は、学習指導要領解説体育編(文部科学省, 2017, p.122)の抜粋と観点別評価に関する本部会の考え方である。

運動に積極的に取り組み,	観点別評価	自己の学習を調整したり粘り強く取り組んだりする側面が顕著に見られることから、指導改善や学習改善につなげやすい。
約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えや取組を認めたり、	個人内評価	道徳的な観点の色が強く、教師としてABC評価が難しい。
場や安全に気を配ったりすること。		自己の学習を調整したり粘り強く取り組んだりする側面が見えづらいため、指導改善や学習改善につなげにくい。

(4) 学習を促す手だて

① 『体の動きの高まりの定義』

問題の所在



体の動きって何？



多様

違いって何？

体の動き

手だて



体の動きの高まり

できない → できる
できる → 滑らかにできる
工夫してできる

前より楽に動ける
前より痛く感じない

何が高まったのか

多様との違い

特長



教師・・・何を押さえばよいのかが分かる
児童・・・体の動きの高まりを実感できる

② 『かつどん理論』

問題の所在



授業の進め方がトレーニング的になってしまう



手だて

合言葉	資質・能力	学びの姿
かんがえて	思考力, 判断力, 表現力等	○目的を意識する ○ポイントを考える ○工夫を考える
つたえて		○運動の行い方を他者に伝える
どんどんやろう	学びに向かう力, 人間性等	○運動に意欲的に取り組む
できた！ 楽になった！	知識及び技能	○できるようになる ○滑らかに、工夫してできる ○前より楽に動ける ○前より痛くない

特長



教師・・・三つの資質・能力の関係性を授業レベルで考えることができる
児童・・・運動への多様な関わりをもつことができる

③『主体的に学習に取り組む態度の評価規準（ループリック）』

問題の所在



主体的に学習に取り組む態度、どう評価すればよいの？



手だて

主体的に学習に取り組む態度は、自己調整を図る姿について評価規準を作成し、学習カードへの記述を分析・評価する。

不明	主体的B ⁻	主体的B	主体的A、思考B	主体的A、思考A
記述が途中で終わっている、または、記述がない。	「〇〇だった」または「〇〇したい」のどちらか一方のみ記述している。	「〇〇だったから次は(も)〇〇したい」と記述している。	「主体的 B」 + 「高まる動き」や「高めたい動き」を記述している。	「主体的A、思考B」 + 動きのこつやポイントを記述している。

主体的…主体的に学習に取り組む態度 思考…思考・判断・表現

特長



- ①評価の基準が明確で分かりやすい
- ②スピーディーに評価できる
- ③評価を基に指導改善、授業改善が進めやすい
- ④スピーディーに評価できる

④『毎時の主発問と価値付け』

問題の所在



大切なことがいっぱい？何が大切？



手だて

(ア) 毎時の主発問

評価する(価値付ける)内容	教師の発問
動きの高まりを実感	「何が高まりそう？」
運動の行い方の工夫	「どんな工夫をしたの？」
ポイントを見付ける	「どうやったらできたの？」

一度にたくさんの情報を児童に伝えるのではなく、1つか2つに絞って段階的に指導する。

単元計画(p12、p13)に毎時間の具体的な主発問を明記した。

(イ) 導入場面での価値付け

児童が記入した振り返りを導入場面で意図的、計画的(主体的に学習に取り組む態度の評価規準(ループリック)を活用)に紹介する。

特長



- 教師・・・毎時間の主発問が分かる
- 児童・・・段階的に行い方を理解することができる

(5) 検証授業レポート

① 検証の対象と方法

(ア) 検証の時期

令和元年 7月

(イ) 検証の対象

江東区立浅間野川小学校第6学年32名(指導者:関川 祐亮 主任教諭)

(ウ) 検証の方法

「主体的に学習に取り組む態度」の二つ側面「自己の学習を調整すること(以下、「自己調整」)」「粘り強く取り組むこと」(文部科学省,平成31年1月)のうち、自己調整を図る力がどのように形成されていくのかを測定する。

- 学習カードの振り返りスペースに「〇〇だったから、次は〇〇したい」と児童に書かせる。
- 時間は3分間。
- 学習カードの力を測定する性格から、振り返り場面における授業者の発問を意図的に制限し、振り返りの直前や振り返り中に教師の指示や発問等は一切行わない。
- 教師は毎時の導入場面で前時の学習カードから数名の児童を意図的に抽出・紹介・共有し、価値付けを図る。

② 検証の目的及び内容

研究の目的は「学びに向かう力,人間性等」の指導改善や学習改善につながる評価の在り方を明らかにすることである。目的達成のための条件は、以下の四つである。

① 評価の規準が分かりやすい。
② 評価後にどのように指導改善や学習改善を図ればよいか明確である。
③ スピーディーに評価できる。(10~15分程度)
④ 全教科・領域等を横断する振り返りの手法である。

③ 検証の方法

自己調整を図る力の評価規準を次のように設定し、学習カードへの記述を分析・評価する。

不明	主体的B ⁻	主体的B、思判表B	主体的A、思判表B	主体的A、思判表A
記述が途中で終わっている、または、記述がない。	「〇〇だった」または「〇〇したい」のどちらか一方のみ記述している。	「〇〇だったから次は(も)〇〇したい」と記述している。	「〇〇だったから次は(も)〇〇したい」に加え、「高まる動き」または「高めたい動き」を記述している。	「〇〇だったから次は(も)〇〇したい」に加え、「高まる動き」または「高めたい動き」を記述している。さらに、動きのこつやポイントを記述している。

*「主体的」…主体的に学習に取り組む態度 「思判表」…思考・判断・表現

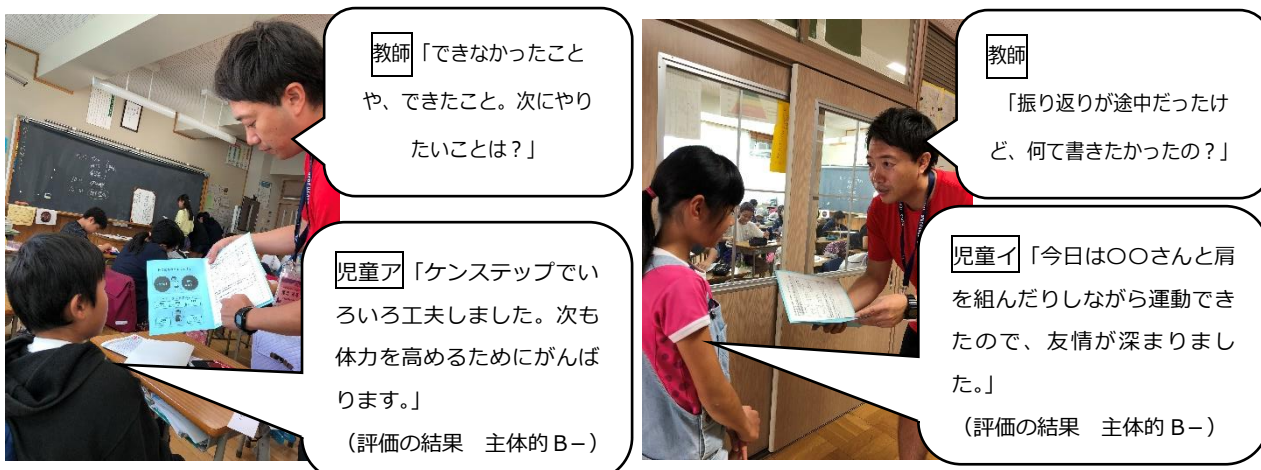
④ 検証の結果

	サンプル数	不明	主体的B ⁻	主体的B、思判表B	主体的A、思判表B	主体的A、思判表A
第1時	28	0	5	22	1	0
第2時	30	1	2(3)	24	3	0
第3時	29	1	1(2)	20	7	0

*数字の単位は「人」とする。

* ()は発話プロトコル分析による結果を評価規準に照合・評価し、整理し直した数字である。

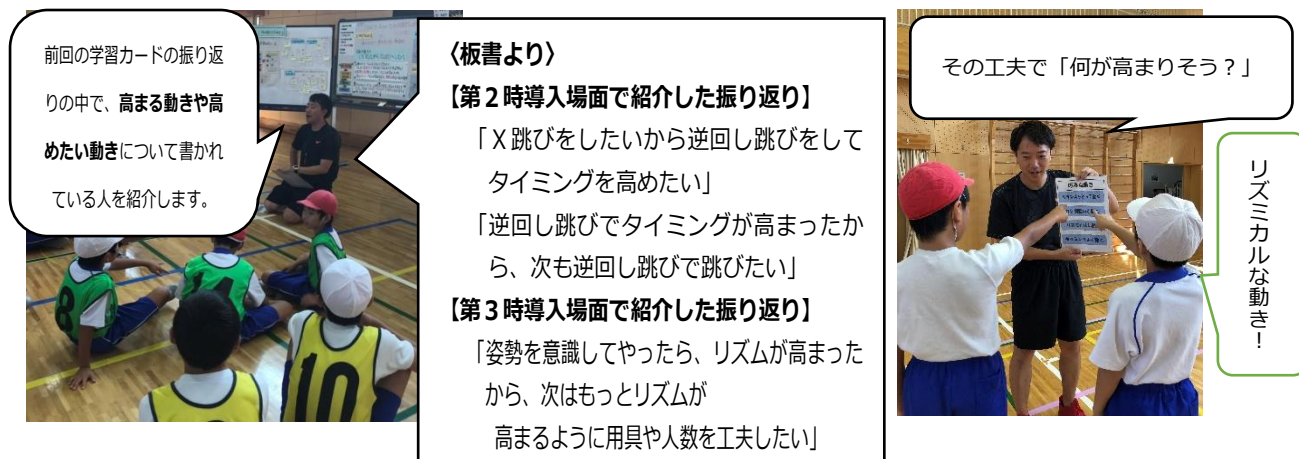
学習カードへの記述分析では測定できない「不明」児童に対し、個別インタビュー調査を行い、発話プロトコル分析した様子
第2時〈児童ア〉学習カードへの記述なし 第3時〈児童イ〉学習カードへの記述が途中の児童



⑤考察

単元が進むにつれ、主体的に学習に取り組む態度「A」評価の人数が増加した要因として、2つの教師行動「導入場面の価値付け」「体力要素への意識付け」が考えられる。

「導入場面での価値付け」は、第2時及び第3時で意図的・計画的に行い、(主体的 A、思判表 B)を紹介し、価値付けた。



「体力要素への意識付け」は、運動学習場面において、体力要素が記載されたフリップを教師が持ちながら3つの発問「どんな工夫をしたの?」「どうやったらできた?」「何が高まる?」を繰り返すこと、児童が「高まる動き」を振り返ったり「高めたい動き」を意識したりすることができたと考えられる。

⑥結論

学習の振り返り場面において「〇〇だったから、次は(も)〇〇したい」を活用して児童に自己省察させることは、「学びに向かう力、人間性等」における学習改善に一定の効果が認められた。一方で、教師の指導改善の効果については測定できていないため、第3時終了時点で授業者へのインタビュー調査を行った。関川主任教諭へのインタビュー調査を発話プロトコル分析した結果が次である。

インタビュアー「今回の研究のよいところを聞かれたら、何と応えますか」
関川「ん〜、やっぱり速いってことじゃないですかね。速く仕分けられる。この子がAとかBとか規準が明確なので、仕分けやすかったです。あとは、次の時間に、自分(授業者)がこの子にはどのように関わればよいか分かるのがよいですね。」

下線部のように、教師が次時に働きかける内容が明瞭であり、「〇〇だったから、次は(も)〇〇したい」の活用は、授業者の指導改善にとっても一定の効果があることが認められた。